

Sinfonia

シンフォニア

Close Up

開館40周年Special Concert Lineup!! 第2弾発表

デビュー20周年×ザ・シンフォニーホール開館40周年
上原彩子 プレミアム・リサイタル

ほか

「音楽で暮らしに感動を届ける」ザ・シンフォニーホールの情報誌

Thanks!!
50
号記念

Vol.50

2022 3月 - 5月
2022 3/10 発行

TAKE FREE

ヴァイオリン

古澤 巖

The Symphony Hall

Big Band

Vol.17

Music Director 菊池素人

DISCO

ディスコ



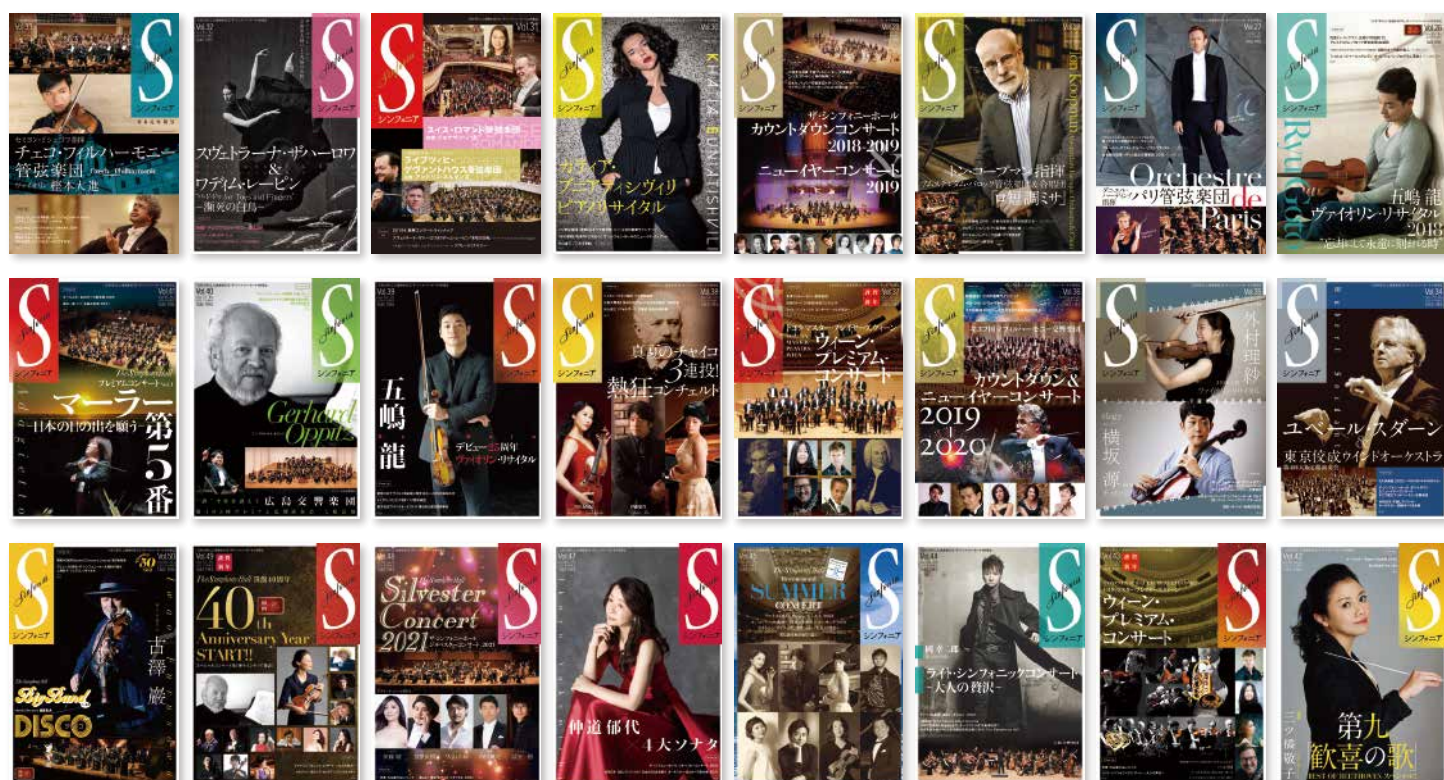


Thanks! 50号記念号!!

株式会社ザ・シンフォニーホールが発行する会報誌「Sinfonia」は、
2014年の0号からスタートし、今号で記念すべき50号を迎えました。
これもひとえに読者の皆様、ホールをご利用頂いている主催者様、アーティストの皆様、
スポンサーとして支えてくださる企業様のおかげでございます。

今後もザ・シンフォニーホールに登場するアーティストの魅力、コンサートの魅力をお伝えしてまいります。
引き続き、ご愛読の程、よろしくお願いいたします。

The Symphony Hall



- 02 The Symphony Hall 40周年記念 特別投稿「～あれから“10年”」
- 04 The Symphony Hall 40th Special Concert Lineup!!
第2弾発表
- 06 The Symphony Hall×関西4オーケストラ スペシャルコンサート
- 08 Le coffre à musique ～ 音楽の宝宝箱 ～
- 10 デビュー20周年×ザ・シンフォニーホール開館40周年
上原彩子プレミアム・リサイタル
- 12 The Symphony Hall Big Band Vol.17 スペシャルゲスト古澤 巖
- 14 卒寿 外山雄三&レジェンド
- 15 ドス・デル・フィドル Vクラシック
- 16 マルティン・ガルシア・ガルシア ピアノ・リサイタル
- 17 特級グランド・コンチェルト
- 18 石田組ツアー2022/2023 硬派弦楽アンサンブル「石田組」
- 19 オールパッハ名曲選!!真夏のオルガン・コンサート2022
- 20 《名曲シリーズ》大阪フィル×ザ・シンフォニーホール
ソワレ・シンフォニーVol.19&20
さくらんぼコンサート2022 大阪公演
- 21 ライト・シンフォニックコンサート ～大人の贅沢～
日本センチュリー交響楽団 ハイドンマラソンHM.27
Osaka Shion Wind Orchestra 第142回定期演奏会
春休み、子どもたちと未来へ!～音楽の展覧会～
- 23 ホールトピックス
- 24 ABCテレビ主催公演・イベント情報
- 28 日本センチュリー交響楽団
- 30 堀江政生のシンフォニア・アワー Vol.50
- 31 Concert Calendar 2022.3～2022.5

3月のSinfonia会員先行予約について

Sinfonia会員先行予約を開始する3月20日(日)～3月27日(日)、4月9日(土)～4月10日(日)の期間は、「お電話」と「窓口」の営業時間を10:00～18:00とさせていただきます。※火曜定休

※Sinfonia会員先行予約期間中は、電話・WEBのみのご予約となります。

※Sinfonia会員先行期間中にご予約されたチケットは、すべて郵送でのお届けとなります。

●電話:ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(火曜定休)
新型コロナウイルス感染拡大の状況により、営業時間が変更となる場合がございます。
詳細はホームページをご確認ください。

●WEB: <https://www.symphonysymphonyhall.jp/>

登録費
年会費
無料!

シンフォニア会員登録方法

シンフォニア会員にご登録いただきますと、先行予約のご利用、シンフォニアのお届け、メールマガジンの受け取り等お得な特典をご利用いただけます。ぜひご登録ください!

▼ WEBサイトからのご登録

ザ・シンフォニーホール ホームページ
<https://www.symphonysymphonyhall.jp/> からご登録下さい。

▼ ハガキでのご登録

定型ハガキに下記の情報を記載いただき、63円切手を貼付の上、ポストに投函ください。
【定型ハガキ裏】1.お名前(フリガナ付き)、2.性別、3.郵便番号、4.住所、5.電話番号、
6.メールアドレス(メールマガジン受取の場合)
【定型ハガキ表】531-8501 大阪市北区大淀南2丁目3-3
ザ・シンフォニーホール「シンフォニア」係

※手続き完了後、約2週間で会員番号のお知らせと、シンフォニア最新号をお送り致します。

※携帯端末のメールアドレスをご登録いただく場合、受信設定をしている方はメールが受信できない場合がございます。[@symphonyhall.jp]をドメイン指定受信して下さい。指定方法はご利用の携帯電話会社にお問い合わせください。

【お客様の個人情報の取り扱いについて】株式会社ザ・シンフォニーホールでは、次に掲げた内容にしたがって、個人情報の保護に努めてまいります。○お客様からご提供いただいた個人情報の管理については、個人情報に関する法令、規程に準拠して管理いたします。○お客様からいただいた個人情報は、以下の目的のみに使用し、それ以外には一切使用いたしません。(1)シンフォニア会員様への情報誌「シンフォニア」および関連する印刷物の発送(2)ザ・シンフォニーホールで開催する催事のご案内する印刷物の発送(3)ホールなど施設の利用に関するご案内、ご連絡(4)ザ・シンフォニーホールの事業、サービスの開発・改善を目的とした調査・研究のためのアンケートの送付・分析・データ集積(5)チケット予約販売に伴う、ご本人確認およびご連絡(6)株式会社ザ・シンフォニーホールに関する案内の発送○個人情報の提供はご自身の意思でご本人様が行うものといたします。○お客様の個人情報を、適正かつ迅速に処理するため、その作業を外部の企業に委託して行うことがあります。その場合、委託先において個人情報が安全に管理されるよう適切に監督します。

●表紙「古澤 巖(ヴァイオリン)/The Symphony Hall Big Band Vol.17 ディスコ」

The Symphony Hall

へご来場のお客様へ

引き続き感染症拡大防止対策へのご協力をお願い致します。

お客様へのお願い

マスク着用



館内では上演中も含め常時マスクの着用をお願い致します。フェイスシールドをご着用の方は、マスクも併せてご着用下さい。マウスガード、透明マスクでのご入場はお断り致します

体温測定



サーモグラフィーや検温器により、37.5℃以上の発熱がある方はご入場をお断り致します

手洗い・手指の消毒



こまめな手洗い、手指の消毒をお願い致します。アルコール消毒液がご利用頂けない方はご自身で代替の除菌シート等をご準備下さい

来場記録シート



当日券をご購入のお客様やご購入者様とご来場者様が異なる場合はご記入下さい。また、チケット券面にご連絡先の記入欄がある場合は、ご入場前に必ずご記入をお願い申し上げます

館内はお静かに



大きな声での声援や、館内での会話は控え下さい

ご自席でのご鑑賞



他のお客様のお座席や、使用していないお座席へのご移動は、他のお客様のご迷惑となりますので、固くお断り致します

追跡システムのご登録

●大阪コロナ追跡システム

ご来場の際に、館内に掲示しているポスターのQRコードより、ご連絡先の登録をお願い致します。公演ごとに、ご登録が必要です

●新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)

厚生労働省が提供している、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のダウンロードにご協力をお願い致します



iPhoneの方はこちら
App Store



Androidの方はこちら
Google Play



ホール専属のジャズ・バンドとして2016年に結成したThe Symphony Hall Big Band。人気ソリストとの共演も話題で、年々動員を増やしている。



視覚と音を融合させることで、作品をわかりやすく楽しんでもほしいという思いで、2014年よりプロジェクションマッピングを導入した。



関西4オーケストラとタッグを組み、シリーズコンサートを積極的に展開。写真は、2月13日に行われた「熱狂コンチェルト」公演の様子。



0歳児からの楽しめるコンサートでは、ロビーコンサートも大盛況。おむつ替え・授乳室も完備し、ファミリーで安心して楽しめる工夫を凝らした。

「Sinfonia」0号に對談記事を書いた。子供達の情操教育に資するプログラムとして0歳児が入場できるコンサートや小学生向けのコンサート。光、映像、プロジェクションマッピングを使った演出。ホール独自の取り組みとしての弦楽合奏団の創設や、器楽、生音にこだわったビッグバンドの立ち上げ、何よりも本家本元の関西4オーケストラとの連携によるオーケストラコンサートの観客増員等、色々なアイデアが披露されている。

それらは当時、夢物語のように感じられたかも知れないが、10年たって振り返ると、そのどれもが具現化されて来た。来場者のベースとなるSinfonia会員も当時の1万人から4万人以上に増え、演奏会も年間70公演増え、260公演に届きだした。それに伴い、来場者も10万人以上増え、年間30万人を超える人々がThe Symphony Hallで音楽・芸術を楽しむようになった。

真に文化・芸術の一大拠点として復活を遂げたのではないかと感じている。

歴史的にも、文化・芸術は古来より教養、高度な精神性の柱として、我々の生活に常に寄り添って来た。音楽は人に「勇気」を与え、「心に癒し」を与えてくれる。その背景にあるメッセージが、人生に

不可欠な教養と高度な精神性の源として根付いてきた。

幼少期には情操教育として受容し、成長と共に發揮し、「見る、聴く、考える、話す」という、生きる力の源泉となり、年月を経て育まれ、「高度な精神性の柱」として培われ、継承されて来たものである。

今、私達はコロナとの闘いの中で、生活の中の潤いを失いつつある。何気なく長い間あたり前のように文化・芸術の力に浴して来た我々はその何か物足りない生活、それは気付かない内に空気が激むように、私達の生活を確実に蝕みつつある事に気付きました。

The Symphony Hall 40周年の今年は、我々にとっても非常に重要な年になる。

年頭の挨拶には「飛躍」と書いた。The Symphony Hall は「再会と飛躍」を打ち出している。コロナ禍により多くの演奏会が中断している中、この2年間会場の出来なかった、多くの演奏家、ファンの皆さんとの再会が我々の飛躍への第一歩になると確信している。

長引く感染対策で入国できない外国人プレーヤーも沢山いた。その反面、彼らの代役として登場した素晴らしい日本人プレーヤーとの出会いも有った。

コロナ禍が招いた分断と新たな

出会い。これまで縁の有った人々。全ての人にまた会いたい。

彼らの匠の芸術に癒されたい。失われた「生の音楽」という新鮮な空気を思う存分しっかり吸い込み、心身共に健康で元気な日常を取り戻す。この事がThe Symphony Hall 40周年を「飛躍」の年にするものと信じている。

多くの方々に支えられたこの10年。支えて下さった全ての関係者、演奏家、ファンの皆さんへの心からの感謝を申し上げ、その気持ちを大切にアフターコロナ時代へ、わくわく、する取り組みを行って行きたい。2012年当時の初心を大切に、大阪・関西の文化・芸術の発信基地としての役割を全うするべく、現場のスタッフと共に、精進を続ける所存です。そしてその事が多くの人々の心の健康と文化・芸術の振興に寄与するものと確信致します。

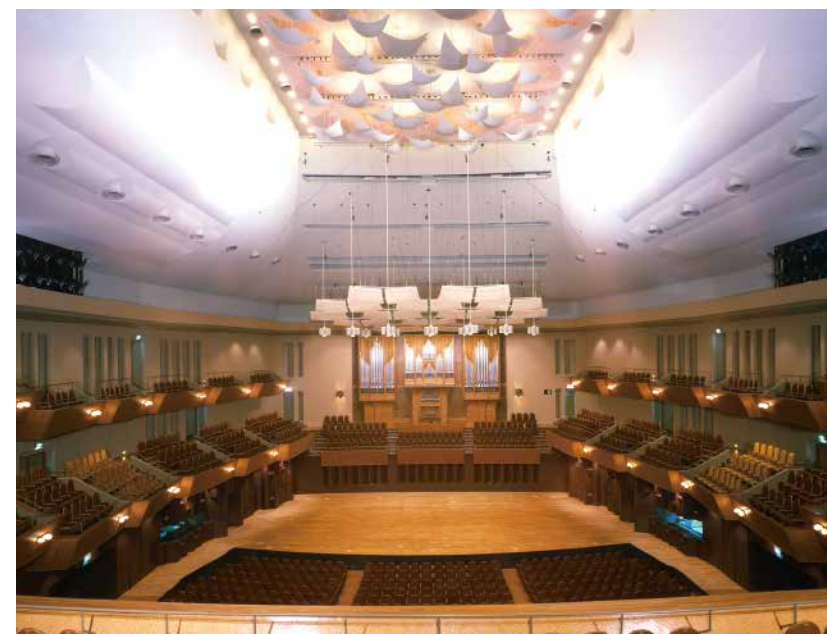
The Symphony Hall 40周年。この年を通過去にこれからも、50周年、100周年と未来へ向けたチャレンジを続けて参ります。

コロナ禍が過ぎ去り、多くの皆さんと共に音楽を楽しむ日常に間もなく戻る事を心から願うと同時に、演奏家の皆さん、ファンの皆さんとの再会を楽しみにしています。

The Symphony Hall 40周年記念 特別投稿



「～あれから“10年”」 The Symphony Hall 再会・飛躍の年へ



滋慶学園グループ総長
The Symphony Hall総監

浮舟 邦彦

2012年新年、東日本大震災からの復興への道筋が見えだした頃だった。年が明けて間もなく金融機関から連絡が入り、The Symphony Hallの未来を担ってもらえないかと依頼があった。

「職業教育を通じて社会に貢献する」この一念を大切に、専門学校を運営して約35年（2012年当時）。大阪からスタートし全国に80校近い学校を運営するに至ったが、関東、東北の学校は震災のダメージも大きく我々も復興の最中だった。

時代の流れの中、特に大阪は行財政改革で、文化・芸術関連予算が大きく減り、そうでも無くとも色々問題を抱えている時だった。The Symphony Hallの役割の大きさは、「日本初のクラシック音楽専用ホール」「残響2秒」と後に完成した東京の「サントリーホール」と並び、カラヤン、バーンスタインを始め、世界中の巨匠から絶賛され注目され続ける大切な日本の文化資産であり、特に関西のクラシック界においては必要不可欠な存在であることは論を待たない。「やれるか？」とは自分に問わなかった。

「なんとかしなければ！」
決断には時間はからなかった。

「The Symphony Hall

ー」を日本の文化資産と捉えて未来に継承する」

「名前も用途も変えない、The Symphony Hallをありのまま音楽の殿堂として継続する」

決めたのはこの2点。2012年3月にはこの事を公式に発表し、移行期間も入れて、2014年1月1日からThe Symphony Hallの運営に着手する事も決まった。

大阪・関西の音楽・芸術の振興に寄与する。「滋慶学園グループの新たな形の社会貢献事業」が始まった。

あれから10年。

大阪の現状、何が有って、何が必要なのか？クラシック音楽は行政補助の少ない大阪では生きられないのか？当時、担当者も含め色々と言ひ合った。

私はこれまでも、多くの課題が見えて来た時に「アイデア」「チャレンジ」「イノベーション」を大切にしてきた。ホールが自立・自営する事こそが、未来への継承のチャンスとなる。

自立・自営に向けたアイデアが出ればチャレンジし、イノベーションを続ける。今も変わる事のない大切なルーティーンが今日も続いている。

2014年の開業時には「Si

12/17 土 **熱狂コンチェルト 必聴!!チェロ3大協奏曲**

ザ・シンフォニーホール主催の人気企画「熱狂コンチェルト」の12月公演は、日本のチェリスト、佐藤晴真、横坂 源、宮田 大が揃い踏み。飯森範親指揮、日本センチュリー響のサポートを得て、佐藤は端正なハイドン、横坂は憂愁に満ちたエルガー、宮田はロマンあふれるドヴォルザークと、3人それぞれの音楽性に符合した傑作に挑む!!

ハイドン:チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1 /エルガー:チェロ協奏曲 小短調 op.85 /ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 op.104

料金:S 7,800円 A 6,800円 B 5,800円 (税込)



2023 1/6 金 **ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ** NEW! ※詳細は後日発表します。

ハリウッド映画、テレビ、またブロードウェイミュージカルから幅広いレパートリーを有し、日本では著名アーティストとの共演で各地チケット完売。ザ・シンフォニーホールではどのようなプログラムが並ぶか、続報をお楽しみに!



12/11 日 **シャルル・リシャール=アムラン ピアノ・リサイタル** ※詳細は後日発表します。

カナダ、ケベック州出身。2015年に開催された第17回ショパン国際ピアノコンクールで第2位とソナタ賞を受賞し、世界中から注目を集めたシャルル・リシャール=アムラン。ザ・シンフォニーホールでは2018年にオール・ショパンプログラムでリサイタルを開催し、情熱を秘めたドラマチックな演奏で満員のファンを魅了した。4年ぶりとなる今回のリサイタルでは、よりいっそう深みが増した美しい音色、抒情的なピアノの世界を堪能できるだろう。穏やかな人柄を現わすような柔らかな音は是非で聴いてほしい。



12/15 木 **ザ・キングズ・シンガーズ** NEW! ※詳細は後日発表します。

イギリスのケンブリッジ大学キングス・カレッジにて1968年結成。メンバーを入れ替えながら50年に渡り活動続ける世界最高峰のボーカル・アンサンブルがザ・シンフォニーホールに23年ぶりに登場!



2022年、開館40周年を迎えるザ・シンフォニーホールは、今後変わらなくクラシック音楽の殿堂であるべく、「継承」と「発展」をテーマにした珠玉の公演を開催する。今回は、スペシャル・ラインナップの第二弾を発表。その聴きどころをご紹介します!

まずは、2019年の指揮者デビュー50周年にベルリン・フィル初の「名誉指揮者」となったダニエル・バレンボイム。彼が長年、音楽監督を務めるシュターツカペレ・ベルリンと共にドイツ伝統の響きを存分にお届けする。

ドイツ繋がりでは、ゲルハルト・オピッツのピアノ公演も聴きどころ

その他の40周年スペシャル公演ラインナップ

●4/23(土) 卒寿 外山雄三&レジェンド⇒詳細はP14をチェック! / ●5/12(木) The Symphony Hall Big Band Vol.17⇒詳細はP12をチェック! / ●5/21(土) ライト・シンフォニックコンサート ~大人の贅沢~ ⇒詳細はP21をチェック! / ●5/28(土) マルティン・ガルシア・ガルシア ピアノ・リサイタル⇒詳細はP16をチェック! / ●7/30(土) オールバッハ名曲選!! 真夏のオルガンコンサート 2022⇒詳細はP19をチェック! / ●8/7(日) デビュー20周年×ザ・シンフォニーホール開館40周年 上原彩子 プレミアム・リサイタル⇒詳細はP10をチェック!

十八番のベートーヴェンのソナタ演奏を通して、知的で緻密な構築力によるドイツ・ピアノズムの本懐を最良の形で聴かせてくれるはずだ。

同じくピアノでは、ショパンコンクール第2位の天才シャルル・リシャール・アムランの隅々まで洗練された至芸も期待される。

弦の注目目はやはり、世界的ヴァイオリニストの五嶋みどり。高関健指揮・日本センチュリー響と共演するチャイコフスキーの協奏曲は、40周年にふさわしい感動的な名演になることだろう。

弦はまた、日本期待の若手チェリスト、佐藤晴真、横坂源、宮田大が揃い踏みする「熱狂コンチェルト」も必聴。佐藤がハイドン、横坂がエルガー、宮田がドヴォルザークと、王道協奏曲を一挙に披露する。

他にも、イギリスの名門ア・カペラグループ、ザ・キングズ・シンガーズ。さらに、最新映画やミュージカルを中心に広範なレパートリーで魅了するハリウッド・フェスティバル・オーケストラなど、まさにアンバーサリーイヤーにふさわしい豪華ラインナップ。これは1公演たりとも聴き逃せない!!

The Symphony Hall
40th Special Concert
Lineup!! 第2弾発表!



ホール開館40周年を彩るスペシャルラインナップの第2弾! バレンボイム指揮 シュターツカペレ・ベルリンをはじめ、豪華アーティストたちの来演が決定!

12/6 火 **ザ・シンフォニーホール開館40周年記念 世界の巨匠とともに——**
ダニエル・バレンボイム指揮 シュターツカペレ・ベルリン 大阪公演 NEW!

まさに40周年記念にふさわしい目玉公演だ!世界最高の指揮者の一人、巨匠ダニエル・バレンボイムが、ザ・シンフォニーホールに17年ぶりに登場する!! 1992年から音楽監督を務める手兵シュターツカペレ・ベルリンと共に華麗なる宴をお送りする。7歳で神童ピアニストとして世に出た彼は、1969年から指揮者としても活躍。そのデビュー50周年には名門ベルリン・フィルより同オケ初となる「名誉指揮者」の称号を授与されている。今回はブラームスの交響曲第1番をはじめとした、この黄金コンビにふさわしい珠玉の演目を惜しげもなく披露する予定。彼らの持ち味である重厚でスケールの大きな音楽性から生まれる、ドイツ正統派の名演に全身で酔いしれよう!!



ブラームス:交響曲 第1番 ハ短調 op.68 ほか

2023 1/21 土 **ザ・シンフォニーホール開館40周年記念 世界の巨匠とともに——**
五嶋みどりデビュー40周年×
ザ・シンフォニーホール開館40周年 特別公演

大阪をホームベースに世界に羽ばたいた五嶋みどりがデビュー40周年を迎え、チャイコフスキー・ヴァイオリン協奏曲の音群に込めた平和へのメッセージを発信する。ザ・シンフォニーホール開館40周年の特別公演シリーズが贈る、五嶋の人間性そのものの音楽と高関健指揮の日本センチュリー響が共演。新たな奇跡に遭遇する2023年1月21日に乞うご期待。



チャイコフスキー:イタリア奇想曲 op.45 / 幻想序曲「ロメオとジュリエット」 / ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35

11/19 土 **ザ・シンフォニーホール開館40周年記念 世界の巨匠とともに——**
ゲルハルト・オピッツ プレミアム ピアノ・リサイタル

今回はピアノの分野でもドイツ正統派の巨匠を招聘。知的で堅牢なドイツ・ピアノズムの体現者ゲルハルト・オピッツのリサイタルが実現する!予定演目は、十八番のベートーヴェンのソナタより第17番「テンペスト」や第21番「ワルトシュタイン」など。どちらも難聴と共に生きる道を模索する中で書かれた革新的な傑作なので、オピッツならではの流動性と構築性が随所で楽しめるそうだ!!



ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第17番「テンペスト」 二短調 op.31-2 / ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第21番「ワルトシュタイン」ハ長調 op.53 ほか

11/19、12/6、2023.1/21、3公演のセット券販売が決定! 発売の詳細は次号Sinfonia5月号にて発表します。お楽しみに!

Best of Orchestra

ザ・シンフォニーホール開館40周年記念

The Symphony Hall × 関西4オケ
スペシャルコンサート



リアード音楽院で学び、セイジ・オザワ松本フェスティバルの「エフゲニー・オネーギン」で主役に抜擢された大西宇宙が「ウエスト・サイド・ストーリー」のナンバーを歌うのも聴き逃せない。
総力を結集して繰り広げる濃厚で重厚な演奏

関西フィルは、桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎と、彼が十八番とするワグナー、ブルックナーを奏でる。飯守は80歳を超え、その演奏がますます凄みを増している。関西フィルとは、2001年に常任指揮者に就任して以来（2011年から桂冠名誉指揮者）、20年以上、意欲的なコラボレーションを続けている。2011年に始めたブルックナー・ツィクルス（全10回）は遂に今年3月に完結。また、2009年から2016年までワグナーの楽劇の演奏会形式での上演にも取り組んだ。飯守は、関西フィルがワグナー・オーケストラに成長したと語る。ワグナーの「タンホイザー」序曲の演奏がとても楽しみだ。メインのブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」は、中央ヨーロッパの雄大な森を思わせる、1時間超の大作。ブルックナーの交響曲全曲演奏を成し遂げた飯守と関西フィルの集大成的な演奏となるに違いない。

鮮やかに描かれる日本が誇る綿密なアンサンブル

日本センチュリー交響楽団は、秋山和慶とベルリオーズを中心とするフランス音楽プログラムを取り上げる。齋藤秀雄直伝の明晰な指揮で知られる秋山であるが、80歳を超えた現在、その音楽に円熟味と深みを増している。クリアな音楽作りの秋山と緻密なアンサンブルを誇る日本センチュリー交響楽団との相性は良く、2020年に、秋山は日本センチュリー交響楽団のミュージックアドバイザーに就任した。秋山の鮮やかなタクトで描かれるベルリオーズの「幻想交響曲」やドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」などのフランス音楽の色彩豊かな演奏が楽しみだ。

伝統を継ぎ、進化を続けるゴージャスなサウンド

ラストを飾る大阪フィルは、音楽監督尾高忠明と、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」とR.シュトラウスの交響詩「英雄の生涯」という王道のドイツ音楽プログラムを呈する。尾高はウィーン留学を経て、東京フィル、BBCウェールズ交響楽団、読売日本交響楽団などのシェフを歴任。ドイツ音楽やイギリス音楽に造詣が深い。大阪フィルは、創立者・

若き鬼才によるバーンスタインスペシャル！

トップバッターの大阪交響楽団は、注目の若手指揮者、原田慶太楼と、20世紀アメリカを代表する作曲家であり指揮者で

Vol.1 2022.8/28(日) 2:00PM

大阪交響楽団
指揮 **原田慶太楼**

躍動!!
気鋭 原田慶太楼のバーンスタイン



40周年記念公演の目玉のひとつである、関西4オケとザ・シンフォニーホールのコラボレーション。それぞれのオーケストラが魅せる、秀逸のステージを体感できる、スペシャルコンサート！

Vol.2 2022.10/20(木) 7:00PM

関西フィルハーモニー管弦楽団
指揮 **飯守泰次郎**

感動!!
飯守泰次郎 渾身のブルックナー



Vol.3 2022.11/3(木・祝) 2:00PM

日本センチュリー交響楽団
指揮 **秋山和慶**

円熟!!
秋山和慶のフランス音楽



Vol.4 2023.1/29(日) 2:00PM

大阪フィルハーモニー交響楽団
指揮 **尾高忠明**

華麗!!
尾高忠明の緻密な「英雄の生涯」



あつたバーンスタインの作品を披露する。高校生の時に単身アメリカに渡った原田はマゼールやフェネルに師事。シンシナティ交響楽団のアソシエイト・コンダクターなどを経て、2020年、

「キャンディード」、交響曲第1番「エレミア」、「ウエスト・サイド・ストーリー」というバーンスタインの若き日の作品が並ぶ。マネス音楽院で学び、メトロポリタン歌劇場に出演した森谷真理と、ジュ

大阪交響楽団
[指揮] 原田慶太楼 [ソプラノ] 森谷真理 [バリトン] 大西宇宙

バーンスタイン:「キャンディード」序曲／交響曲 第1番「エレミア」(森谷真理)／ウエスト・サイド・ストーリー「演奏会用組曲」第1番より マリア、一つの心、どこかへ、バルコニーシーン(大西宇宙&森谷真理)／「ウエスト・サイド・ストーリー」より「シンフォニックダンス」

2022.8/28(日) 2:00PM
単公演チケット先行予約:4月9日(土) 一般発売:4月10日(日)

関西フィルハーモニー管弦楽団
[指揮] 飯守泰次郎

ワグナー:歌劇「タンホイザー」序曲／ブルックナー:交響曲 第4番 変ホ長調「ロマンティック」

2022.10/20(木) 7:00PM
単公演チケット先行予約:5月19日(木) 一般発売:5月21日(土)

日本センチュリー交響楽団
[指揮] 秋山和慶

ベルリオーズ:「ローマの謝肉祭」序曲／ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲／ベルリオーズ:幻想交響曲

2022.11/3(木・祝) 2:00PM
単公演チケット先行予約:5月19日(木) 一般発売:5月21日(土)

大阪フィルハーモニー交響楽団
[指揮] 尾高忠明

ベートーヴェン:交響曲 第5番「運命」／R.シュトラウス:交響詩「英雄の生涯」

2023.1/29(日) 2:00PM
単公演チケット先行予約:7月21日(木) 一般発売:7月31日(日)

プラチナセット券 30,000円(税込) ※特典つき
各公演 S席 7,500円 A席 6,500円 B席 5,500円 (税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [主催] ザ・シンフォニーホール

朝比奈隆がベートーヴェン、ブラームス、ブルックナーなどのドイツ音楽を十八番としていたが、その伝統を今も受け継いでいる。尾高は2018年に大阪フィルの音楽監督に就任。尾高はすぐに大阪フィルとベートーヴェンの交響曲全曲演奏に取り組み、大阪フィルに新たな色を加えた。また、管弦楽法の大家であったR.シュトラウスが交響詩での集大成として書いた「英雄の生涯」は、大阪フィルのゴージャスなサウンド

ドにふさわしい選曲。5年にわたる尾高と大阪フィルのコンビの進化を聴くには最適の2曲といえよう。

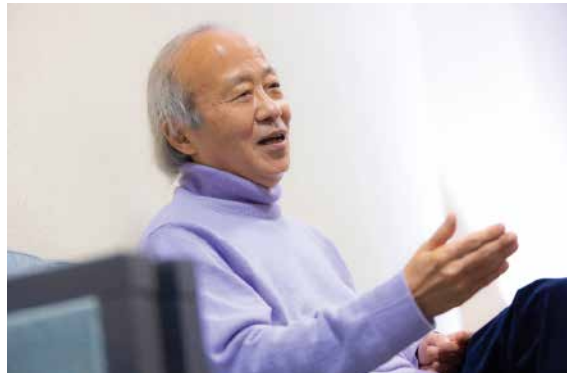
「The Symphony Hall」×「関西4オケスペシャルコンサート」は、気鋭の鬼才から円熟のマエストロまでが登場し、各オーケストラの魅力が発揮されるプログラムが組まれている。まさに4つのオーケストラの競演であり、饗宴である。

(文 山田治生)

プラチナセット券発売決定!

マエストロ4人のサイン入り色紙をプラチナセット券購入者全員にプレゼント!

プラチナセット券 30,000円(税込)
先行予約:3月20日(日) 一般発売:3月27日(日)
※プラチナセット券は、ザ・シンフォニー チケットセンターでのみお取り扱いします。他のプレイガイドでの販売はございません。※プラチナセット券をご購入頂いた方だけにプレゼント致します。※特典のお渡しは、各公演当日ロビーにてチケット同封の副券と引き換えをさせていただきます。



キラキラとホールを彩る全3公演！
尾高忠明と大阪フィルが織りなす
フランス音楽

指揮 尾高忠明 Interview

Le coffre à musique

～音楽の宝石箱～

大阪フィルハーモニー交響楽団

撮影: 田村和成

音楽監督就任以来、5年連続で“作曲家シリーズ”を展開する尾高忠明と大阪フィル。2022年は、“Le coffre à musique～音楽の宝石箱～”と題した全3回のシリーズを行う。新シーズンの試みについて、マエストロへのインタビューをお届けする。

フランスものが得意だなんて夢にも思っていなかった
2021年に指揮者生活50周年を迎えた尾高忠明。大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として5年目を迎える今年、フランス音楽に焦点を当てた演奏会シリーズを企画した。キラキラとした彩りを発するフランス音楽の魅力を語った。

シリーズは全3公演。音楽監督就任以来、大阪フィルと毎年取り組む作曲家シリーズでは、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザークを順番に取り上げてきた。

「さて、次はどうしようかとなった時に思いついたのがフランス音楽でした」

1947年生まれ、神奈川県鎌倉市出身。父は作曲家・指揮者の尾高尚忠、兄は作曲家の尾高憚忠という音楽一家で育った。

フランス音楽との本格的な出会いはイギリスだった。1987年にBBCウエールズ・ナショナル管弦楽団の首席指揮者に就任して3年が過ぎた頃、プロデューサーに「フランス音楽が向いている」と言われた。「それまでも指揮したことはありましたが、フランスものが得意だなんて夢にも思っていませんでした。でも、何度か演奏すると評判になって、頻繁にや

るようになったんです。日本人にとってフランス音楽はドイツ音楽よりも実は近い存在です。フランス料理と和食には繊細さという共通点があるように、音楽も感覚で分かる部分がありますからね」

フランス音楽は、必ずレベルアップにつながる

朝比奈 隆の薫陶を受けた大阪フィルは、ドイツ音楽の印象が強い。実際、フランス音楽に集中的に取り組むのは今回が初めてだ。そんな大阪フィルとだからこそ、フランス音楽をやる価値があると感じている。

「喜怒哀楽や起承転結がはっきりしているドイツ音楽に対し、フランス音楽は感覚的で淡い色のイメージ。それを表現するには、美

しい音と音程が欠かせません。さらに音の中に漂う香りや色を感じ取ることは音楽家にとってとても大事。必ずレベルアップにつながります」と断言する。

シリーズ1回目は6月10日。ペルリオーズの序曲「ローマの謝肉祭」は学生時代にホルン奏者として演奏したことがあり、第2回民音指揮者コンクールの課題曲でもあった思い出の作品だ。プーランクとデュリュフレという取り合わせには、ちょっとした隠し味を潜ませている。

「デュリュフレは兄の作曲の先生です。レクイエムのレコードができた時にすぐ送ってくださって、曲があまりにもきれいでびっくりしました。そして、オルガニストでもあるデュリュフレは、プーランクのオルガン協奏曲を初演しています。そういう流れを意識したプログラムです」

8月25日にはビゼー、ドビュッシーら4人の作曲家が並び、ラストとなる11月25日はオールラヴェルプログラム。「フランス音楽をやるなら、ドビュッシーとラヴェルは欠かせません」。ひらめきの天才、ドビュッシーの作品からは交響詩「海」などをピックアップした。「ドビュッシーの譜面には思いも寄らない仕掛けが隠れていて、演奏するのは大変。でも、静かな海に風

が吹いて波との対話が始まり、やがて嵐になる。自然界の音を感じとして捉えているのがこの作曲家のすごいところですよ」

両親がラヴェル本人に会ったことがあるんです

一方のラヴェルは時計細工のようには細かい曲作りが持ち味。個人的に特別な思い入れがあるという。「両親がラヴェル本人に会ったことがあるんです」。尚忠が妻と共にウィーンに留学していた1930年代、ラヴェルがボレロを指揮すると聞き、バリに駆けつけた。「客席は興奮のつぼ。その勢いに乗せて両親はラヴェルの楽屋を訪ねたんだそうです。そうしたら本人が対応してくれて、直前ま

でボレロを振っていたとは思えないほど汗一つかずに話を聞いてくれて、ものすごく丁寧な人だった。母から聞いた話ですが、一生忘れられませんが」と笑顔を浮かべる。

音の良さに驚き、客席が近くてまるで包み込まれるようでした

ザ・シンフォニーホールの舞台に初めて立ったのは、開館6日後の1982年10月20日。札幌交響楽団を率い、ピアニストの中村紘子と協演した。「音の良さに驚き、客席が近くてまるで包み込まれるようでした。今回、フランス音楽のひだを感じていただけにぴったりのホールです」

大阪フィルと歩んできた4年

間は、共に成長する日々だった。「指揮者として50年やってきましたが、大阪フィルからはどのオーケストラでも味わったことのない音が聞こえてきます」。

だが、決して満足はしていない。「日本中でオーケストラのレベルが上がって、大阪フィルもおちおちとしていられません。こつちを良くしたら、こつちが良くないように見える。椅子の脚の長さをそろえるくらい難しいことを、やり続けなければなりません」。

互いに魅力を引き出し合い、宝石のようなきらめきに満ちたフランスの音色を響かせてくれるに違いない。

(取材・文 倉田陶子)

2022.6/10(金) 7:00PM

[指揮] 尾高忠明
[メゾ・ソプラノ] 小泉詠子 [バリトン] 原田 圭
[オルガン] 大木麻理
[合唱] 大阪フィルハーモニー合唱団
[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団

ペルリオーズ: 序曲「ローマの謝肉祭」/ プーランク: オルガン、弦楽とティンパニのための協奏曲 ト短調 / デュリュフレ: レクイエム
※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは3/29(火)より一般発売

先行予約: 3/24(木) 一般発売: 3/30(水)

2022.8/25(木) 7:00PM

[指揮] 尾高忠明
[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団

デュカス: ベリのファンファーレ / イベール: ディヴィエルティスマン / ビゼー: 「アルルの女」組曲(抜粋) / ドビュッシー(ビュッセル編): 小組曲 / ドビュッシー: 交響詩「海」
※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは5/31(火)より一般発売

一般発売: 6/1(水)

2022.11/25(金) 7:00PM

[指揮] 尾高忠明
[ピアノ] 岡田 奏
[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団

ラヴェル: 組曲「マ・メール・ロワ」/ 「ダフニスとクロエ」第2組曲 / ピアノ協奏曲 ト長調 / ボレロ
※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは7/26(火)より一般発売

一般発売: 7/27(水)

各公演 A 5,000円 B 4,000円 C 3,000円 (税込)
[お問い合わせ] 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890
[主催] 公益社団法人大阪フィルハーモニー協会 / ザ・シンフォニーホール
チケット先行予約に関するお問い合わせ: ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

デビュー20周年 ×ザ・シンフォニーホール 開館40周年

Uehara Ayako

Interview

上原彩子 プレミアム・リサイタル



撮影 鈴木久美子

記念すべきWアニバーサリーイヤーに贈る！ 上原彩子のピアノズムを余すことなく味わえる ザ・シンフォニーホールでのリサイタル

2002年にチャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性として日本人として史上初めての第1位を獲得。以降、幾多の名演を重ね、ファンから熱い視線を集め続けてきた上原彩子。デビュー20周年という記念すべき年に、ザ・シンフォニーホールでのリサイタルが決定した。ときに迫力たっぷりに、ときに繊細で豊かに。圧倒的な演奏力は必ず聴き手の心と魂を揺さぶる。

デビューからの20年は
とても幸福な年月でした

2002年に日本人として女性として初めてチャイコフスキー国際コンクールで優勝し、以後、ダイナミックで表現力豊かな演奏で活躍を続けてきたピアニストの上原彩子。デビュー20周年を迎える2022年は、ザ・シンフォニーホールの40周年でもあるということで、両者の節目の年を記念し、『プレミアム・リサイタル』と題した待望のリサイタルが8月7日に開催される。

「チャイコフスキー国際コンクールでの優勝は、ピアニストとして活動していくきっかけになりました。デビューからの20年は自分のやりたいことを実現できた、とても幸福な年月でしたね」

ザ・シンフォニーホールでの近年の出演では、2019年に日本センチュリー交響楽団とラフマニノフの第2番の協奏曲で共演。2021年8月には「熱狂コンチェルト」と題するシリーズコンサートで、チャイコフスキーの第1番の協奏曲を、2022年2月13日には同じく「熱狂コンチェルト（哀愁のラフマニノフ）」公演では、ラフマニノフの第2番の協奏曲で、満場の聴衆を熱狂させた。満を持してリストのソナタ・ファンタジーあふれるシューマン

ザ・シンフォニーホールでのリサイタルは久しぶりとなる今回は、特別な思いのこもったプログラムが用意されている。中核となるのは上原の十八番であるロシア音楽だ。

「広いホールで、ピアノ一台で弾くということがうまくいけるプログラムを選びました。ザ・シンフォニーホールは、大ホールですが、客席との距離が近く感じられるのが特徴ではないでしょうか。まずスケールの大きな音楽であるムソルグスキーの『展覧会の絵』を軸に据えました。私が長年弾いている名作です。他のロシアの作曲家、たとえばチャイコフスキーやラフマニノフなどには洗練された貴族趣味的なところがあるのですが、それらと比べると、ムソルグスキーの魅力はもっと庶民に寄り添うようなところにあると思います。ムソルグスキーにはあまりピアノ曲がないのですが、もっと書いてほしかったですね（笑）」

《展覧会の絵》に加えて、満を持して披露するリストのソナタ、そしてファンタジーあふれるシューマン作品が選曲されている。

「今回は、ザ・シンフォニーホールですと弾きたいと思っていたリストの口短調ソナタを取り上げます。彼のソナタは、表現されて



いるものが壮大で哲学的、そして抽象的な内容をもつ大規模な作品なのが特徴です。そしてプログラムの最初のシューマンの『幻想小曲集』ですが、シューマンの音はとてもあたたかい感じがします。お客様に、柔和な感情がすぐ手に取るように伝わり、リラックスできる曲だと思うので、冒頭に置くことにしました。シューマンは文学ともつながりがありますし、想像力豊かな人だったと思います。ピアノ曲は、クララ（シューマンの妻）が弾くことを想定していましたが、繊細さや特徴ではないでしょうか。曲の中でちょっと突飛かと思えるように次々と変化していくあたりにも注目して聴いていただきたいです」

ザ・シンフォニーホールでこそ魅力が伝わるレパートリー

小柄でありながらも、上原は楽器を非常に豊かに鳴らし、輝くような響きを引き出す。指だけではなく、体全体を上手に使うことが、よい響きを出すには必要だという。

「まずはうまく椅子に座ることが大事で、上半身が楽になるようなよいポジションを見つけることが大切です。背中の下あたりや腹筋もうまく使えるといいですね。コロナ禍以前は、ジムに行っていました。ジムに行っていたが、それもなかなかできなくなったので、今は家で軽いダンベルなどをしたり、週2回くらい近所を走ったりなどしています。通っている整体では

体幹を鍛える器具を用いているのですが、跳躍するパッセージなどが以前よりも弾きやすくなりました。トレーニングでは、筋肉を鍛えるというよりも、普段意識していない筋肉やこれまで使っていなかった部分をうまく使えるようにするというイメージでしょうか」

近年はフォルテピアノでのモーツァルトなどにも取り組み、そうした成果を通常のピアノを弾く際にもいかしているという。

「弱音のヴァリエーションが広がりました。またフォルテピアノはきちんと脱力しないという音が出ないので、そうしたことはモダンなピアノを弾く場合も同じですね」

実力、人気ともに日本を代表するピアニストの上原は、現在進行形で、飽くなき探求を続けているのである。今後はシューベルトやブラームス、さらには、まだ弾いたことのないラフマニノフの第4番の協奏曲なども手掛けていきたいという。

「ザ・シンフォニーホールでこそ魅力が伝わるレパートリーを選びましたので、ぜひピアノ一台で奏でるオーケストラのような響きを味わっていただけたら嬉しいです」

（取材・文 伊藤制子）

【ピアノ】上原彩子

シューマン：幻想小曲集 op.12（夕べに／飛翔／なぜ／気まぐれ／夜に／寓話／夢のもつれ／歌の終わり）

リスト：ピアノ・ソナタ 口短調 S. 178 / R. 21

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

2022.8/7(日) 2:00PM

全席指定 5,000円（税込）

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

【先行予約】3/24(木) 一般発売：3/27(日)





ビッグ・バンドとしての土台がしっかりと揺るがないので、自分としてはそれに乗かって、まるでヴォーカリストのようにヴァイオリンで気持ち良く歌うだけなんです。

ジャズだけでなくプログレッシヴ・ロックなアレンジとか、いろいろと一緒に経験しているのでもっと心配していません。本当にいつもビッグ・バンドとしての土台がしっかりと揺るがないので、自分としてはそれに乗かって、まるでヴォーカリストのようにヴァイオリンで気持ち良く歌うだけなんです。新しい抽斗（ひきだし）がまた増えると思って、むしろ凄く楽しみにしています」

最先端の人々が集まる場所でもいつも驚かされてばかりでした。70年代終わりの「黄金期」に、新宿にあった伝説のディスコ「ツバキハウス」に出入りしていたこともあったという。

「大学1年生の頃、1年間だけ社会勉強のつもりで通いました。それまでヴァイオリンとサッカードを知らなくて世間に疎く、さすがに大学生になってこれじゃいけないと思ったんですね。それで親を説き伏せて、毎週土曜の夜に出かけて日曜の朝に帰ってくるのを続けていたら、母がいつも玄関で怖い顔をして待っていました（笑）。自分は何も知識もなく出入りしていたのですが、そこは当時の最先端の人々が集まる場所、踊りに行くというよりはファッションナブルで個性的なキャ

ラクターのみんなと会ったのが楽しみで、いつも驚かされてばかりでした。ダンスや音楽も刺激的でどんどん新しいものに入れ替わる。貴重な体験でしたね」

また古澤といえば、彼の奏でる名曲にのせて日本の社交ダンス界のトップ・プロがダンスを披露する番組「Dの旋律」今宵はダンスと音楽と」が好評につきBSテレ東での放送延長が決まったことも話題のひとつ。

「番組ではありとあらゆるダンス音楽を演奏しています。例えば昭和を感じさせるようなレトロな曲でも、ダンサーにとっては決して古びていないし、むしろ昔を知らない若い世代にとっては逆に新鮮らしいのです」

どの楽器のスキルもハイレベルでクオリティが高い

そもそもジャズもディスコも発祥の時代こそ異なるが、ダンスホールで流れていたという背景は同じ。ビッグ・バンドとヴァイオリンの競演でザ・シンフォニー・ホールに生まれ変わるのを期待したい。

「ヴァイオリンだって、もともととはダンスをするための楽器という側面がある。メロディが弾けてポータブルだからどこへでも気軽に持って行けて、しかも小さい

【スペシャルゲスト】古澤 巖（ヴァイオリン）
【演奏】The Symphony Hall Big Band

スターウォーズのテーマ／マンマ・ミーア・セレクション～ Mamma Mia～Dancing Queen ～ Gimme! Gimme! Gimme! ～ Voulezvous ～ SOS ～ I Have A Dream ～/スティーヴィー・ワンダー・メドレー～ Sir Duke ～ I Just Called To Say I Love You ～ Isn't She Lovely ～/Paganinista/タンゴ・アモーレ/アースウィンド&ファイアー・メドレー～ In The Stone ～ Fantasy ～ That's The Way Of The World ～ September ～ ほか

2022.5/12(木) 7:00PM

全席指定 7,500円（税込）

【お問い合わせ】大阪アートエージェンシー TEL.072-648-3852

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

サイズなら踊りながらも演奏できる……僕は踊りませんけどね（笑）。とにかく、どの楽器のスキルもハイレベルでクオリティの高いTSHBとまた一緒に一緒に機会を与えてもらえて嬉しんです。素晴らしいアレンジが出来上がるのを今から心待ちにしています」

（取材・文 東端哲也）



The Symphony Hall

Big Band

Vol.17

Music Director 菊池寿人

スペシャルゲスト 古澤 巖

DISCO ディスコ

Interview

2年ぶり古澤 巖との共演は、心躍る“ディスコ”ナンバーがずらり！

The Symphony Hall Big Bandとヴァイオリニスト 古澤 巖との6度目の共演!“ディスコ”をテーマに、

果たしてどのようなコラボレーションで楽しませてくれるのか——。

今号では古澤巖のインタビューをお届けします！

ヴァイオリンで気持ち良く歌うだけなんです

ザ・シンフォニーホールが誇るThe Symphony Hall Big Band（※以下TSHB）のシリーズ・コンサートも5月の公演でVol. 17に突入。ゲストに6回目の登場となる古澤巖を迎え「ディスコ」をテーマに開催する。

プログラムは2部構成で、前半はビッグ・バンドのみで、アパの「ダンシング・クイーン」へ「マンマ・ミーア」といった王道チューンを演奏。

後半はスペシャルゲストとの共演が目玉で、1970年代後半のディスコ・ブームを牽引した、アースウィンド&ファイアー・メドレーほか、古澤巖のオリジナル楽曲も予定され、クラシック界の人気ヴァイオリニストがどう挑むのかも注目を集めている。

「菊池さん（※トランペット奏者でTSHBのバンド・リーダー兼音楽監督・菊池寿人）にも、ディスコで大丈夫ですか？って念を押されました（笑）。……もちろんこれまでヴァイオリンでほとんど演奏したことないジャンルには違いますが、前回（※2020年7月のVol. 15）共演した時のテーマも、ラテンでマンボ！でしたし、これまでも

巨匠に敬意と愛情を込めて贈る 特別プログラム

指揮 外山雄三



現役最年長マエストロに
花を添える祝祭公演

「卒寿」のコンサートは、昨年5月10日の外山雄三の誕生日に開催される予定だったが、コロナ・ウィルスの影響でこの4月に延期となった。卒寿を迎えたマエストロを祝うべく、堤剛、前橋汀子、清水和音という日本を代表するレ

チェロ 堤剛



ヴァイオリン 前橋汀子



ピアノ 清水和音



ジェンドたちが一堂に会するコンサートは、もちろんザ・シンフォニーホールで行われるこの特別企画のみである。

日本の現役最年長指揮者の外山は、大阪交響楽団（大阪響）名誉指揮者とNHK交響楽団正指揮者として活動を続ける。日本のあらゆるプロオーケストラの指揮台に立ち、2016年から大阪響のミュージック・アドバイザーに就任。同オーケストラのレベルを飛躍的に向上させ、昨秋にはこのコンビで自作自演のCDもリリースした。

コンサートには、外山の卒寿を祝おうと、長きにわたり共演を重ねてきた3人の重鎮級ソリストが集う。ともに日本の楽壇を牽引してきた前橋汀子とは、彼女のキャリアのなかで最も弾いてきたというメンデルスゾーン《ヴァイオリン協奏曲》を演奏する。また、伝説の「N響世界一周旅行」をともにした盟友、堤剛とは、そのツアーで共演したドヴォルザーク《チェロ協奏曲》を取り上げる。そして日本のピアノ界を代表する名手、清水和音。この祝祭的なコンサートでチャイコフスキー《ピアノ協奏曲 第1番》を弾くことを心待ちにしているという。

作曲家 外山雄三としての顔も披露される。「N響世界一周旅行」で

発売中

マエストロは《管弦楽のためのラプソディー》を携えてツアーに参加した。外山の名を世界へ広めたこの曲を、25歳で大阪響正指揮者のポストに就いた若き鬼才、太田弦が作曲家の御前でタクトを振る。4月23日、ザ・シンフォニーホールに集い、マエストロを祝福したい。

（文 道下京子）

[指揮] 外山雄三、太田 弦 [管弦楽] 大阪交響楽団

[ヴァイオリン] 前橋汀子 [チェロ] 堤剛 [ピアノ] 清水和音

外山雄三：前奏曲（指揮：外山雄三）／チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23より 第1楽章（指揮：外山雄三）／ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 op.104より 第3楽章（指揮：外山雄三）／外山雄三：管弦楽のためのラプソディー（指揮：太田弦）／メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64より 第1楽章（指揮：外山雄三）／ワーグナー：楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲（指揮：外山雄三）

2022.4/23(土) 2:00PM

S 8,800円 A 6,600円 B 4,400円 プレミアム 11,000円（税込）

【お問い合わせ】公益社団法人大阪交響楽団 072-226-5522 / ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】公益社団法人大阪交響楽団 / ザ・シンフォニーホール



繊細さと情熱を兼ね備える
粋な世界観

5月に、初お目見えの硬派弦楽アンサンブル「石田組」として、そして約3年半ぶりとなる「三浦一馬キーンテート」のメンバーとして、ザ・シンフォニーホールに連続して登場する予定のカリスマ・ヴァイオリニスト、石田泰尚が早くも8月のステージで本ホールに帰還を果たす。

DOS DEL FIDDLES (ドス・デル・フィドル)は、コワモテな容姿に繊細さと情熱を兼ね備えた演奏で人気を誇る石田と、国内各地のオーケストラにゲスト・コンサートマスターとしても引っぱりだこの俊英、崎谷直人によるヴァイオリン・デュオ。共に神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとしても活躍する(※同じ立場ゆえに実は一緒に演奏する機会はそれほど多くはなかった)二人が意気投合し、2020年から本格始動したこのユニット。同年9月の東京・紀尾井ホールでのリサイタルでは、この編成のために書かれた「バルトーク…二つのヴァイオリンのための44の二重奏曲」からの楽曲を皮切りに、クライスラーやパガニーニの名曲からフォスターやガーシュウィンといったアメリカ作品、そしてピアノやロマ、アイリッシュ



シユ・ダンスなどワールド・ミュージックまで網羅した鮮烈なプログラムで聴衆を魅了。この模様を収録した12月リリースのデビュー・アルバム『DOS DEL FIDDLES・LIVE・』でも更に大きな話題を集めた。

そんな彼らが8月公演で披露するのはX JAPANの「Rusty Nail」、LUNA SEAの「END OF SORROW」など、ドーム・クラスの会場を熱狂させるモンスタースターバンドを中心とした、90年代日本の「ヴィジュアル系」ロックのヒット曲たち。一見がらりと趣向を変えたように思われるかもしれないが、ヘヴィなサウンドをベースにしつつも、そのリリックで憂いのある旋律を有するこれらの楽曲は、クラシック楽器と

の親和性がとても高い。何より、石田&崎谷が体現している「男のロマン」ともいえるべき、粋な世界観とも素敵に合致している。

しかも今回は二人に加えて、伊藤ハルトシ(チェロ、ギター)と園田涼(ピアノ)が参加するスペシャル・ユニット。特に「刀流」の伊藤はかつて日本コロムビアから発売されて一世を風靡したアルバム『Vクラシック Chapter 1 re Bleu・青の章』のアレンジを手掛けた実績もある、本企画のキーパーソンである。いずれにしても王道クラシックでの卓越した演奏に裏打ちされた、同ユニットが紡ぎ出す華やかな「新章」に期待したい。

(文 東端哲也)

[ヴァイオリン] 石田泰尚、崎谷直人
[チェロ、ギター] 伊藤ハルトシ [ピアノ] 園田涼

Rusty Nail (X JAPAN) / END OF SORROW (LUNA SEA)
ほか

2022.8/20(土) 2:00PM

全席指定 5,500円 (税込)

[お問い合わせ] Mitt 03-6265-3201

[主催] 日本コロムビア株式会社 / ザ・シンフォニーホール

先行予約: 3/24(木) 一般発売: 3/27(日)



マルティン・ガルシア・ガルシア ピアノ・リサイタル

ショパン国際コンクール第3位の若きピアニスト
5月のリサイタルは発売開始時から大人気！
繊細な表現と艶やかな色合い
気品あふれるショパン

シヨパン国際ピアノコンクールで第3位を受賞したスペイン人ピアニストのマルティン・ガルシア・ガルシアが、5月にザ・シンフォニーホールでリサイタルを開催する。

ガルシア・ガルシアは、1996年12月3日生まれの現在25歳で、ビスケー湾に面したスペイン北部のヒホン出身。5歳からピアノを始めた彼は、地元のチャイコフスキー音楽学校で、ナターリア・マズーンとイリヤ・ゴルドフアーブに指導を受けた。モスクワ音楽院に学んだ二人の音楽家のもとで、幼い彼はめきめきと頭角を現わしていく。その後、マドリッドの音楽院を経て、アメリカの名門マネス音楽院では名教師ジェローム・ローズのもとで研鑽を積んだ。昨年にはクリーヴランド国際ピアノコンクールで優勝し、シヨパン・コンクールではスペイン人として初めての上位入賞者となった。

昨秋のこのコンクールでは、出場者の多くがすでにプロとして幅広く活躍しており、前回のコンクールよりも明らかに高い水準を示していた。ファイナルまで残っていたのは、みずからの個性を強く披瀝し、ピアニストとしてのたくましい生命力を備えた出場者であった。特に、ガルシア・ガルシアは傑出した才能の持ち主である。感情の大きな振幅とともに、細やかな感性を活かした、心の壁をなぞるような繊細な表現が魅力であり、その音楽は艶やかな色合いに彩られている。潤い豊かな響きや即興的なパッセージの表現は特筆すべきで、彼の気品に満ちた息遣いから生み出されるメロディは優雅な趣を湛え、シヨパンの音楽の高貴さをいやまに高めている。そのことは、彼のワルツやノクターン、そして即興曲の演奏を一聴すればわかるだろう。また、エチュードでは、ひとつのフレーズのなかにあっても多彩な変化を与え、バラードやスケルツォでは音楽の奥深くに分け入り、作曲家の言葉を丁寧に引き出し、ドラマティックな音物語を描き上げる。彼にとつて演奏技巧とは、作品への解釈と共感を実現し、新しい演奏表現を生み出すための手段である。

ザ・シンフォニーホールで開催されるリサイタルのプログラムは、ガルシア・ガルシアがシヨパン・

コンクールで演奏した曲で構成されている。多彩な音のパレットを駆使する画家の面と、豊かな歌心に歌手の面とが融合する彼の演奏を、このホールでぜひ堪能していただきたい。

(文 道下京子)

[ピアノ]マルティン・ガルシア・ガルシア

オール・ショパン・プログラム バラード 第1番 短調 op.23/即興曲 第3番 変ト長調 op.51/バラード 第3番 変イ長調 op.47/ノクターン 第7番 嬰ハ短調 op.27-1/ボロネーズ 第6番 変イ長調 op.53「英雄」/3つのマズルカ op.50/24の前奏曲 op.28より 第17番 変イ長調、第19番 変ホ長調、第23番 ヘ長調/ピアノ・ソナタ 第3番 短調 op.58

2022.5/28(土) 2:00PM

全席指定 4,000円(税込)

[お問い合わせ]日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545

[主催]日本アーティスト/ザ・シンフォニーホール

発売中





森本隼太

リスト ピアノ協奏曲 第1番



亀井聖矢

ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第3番



Interview

尾城杏奈

ショパン ピアノ協奏曲 第1番

特級グランド・コンチェルト

3人の新鋭ピアニストによるコンチェルト公演。尾城杏奈インタビュー！

「大阪には親戚がいますし、地元の合奏団と共演させていただいていました。大阪の方々は、温かく接してくださり、今でも応援していただいているので、とてもありがたいです。ザ・シンフォニー」

幼い頃から数々のコンクールで成果をあげ、現在は東京藝術大学大学院に在籍中。大阪吹田市生まれで、1歳まで同地で過ごしたという。

ショパンの第1番の協奏曲、フルオケとの共演は初挑戦



「二ホールで弾くのは初めてのことで、本当に楽しみです。音響も素晴らしいと伺っていますので、遠くまで音の表情が伝わるようにタッチなどにも工夫を凝らしたいと思っています」

ショパンは尾城がもともと好きな作曲家だという。

「ショパンを初めて弾いたのは、小学校低学年で、『子犬のワルツ』でした。以後、中学校でもずっと勉強してきました。ショパンの魅力は、ポーランドならではの美しいメロディーラインや歌だと思っています。ショパンの第1番の協奏曲は、これまで弦楽四重奏伴奏版で弾いたことはありますが、フル・オーケストラとの共演は初挑戦になります。この協奏曲には若きショパンのロマンティックなせつなさもあるのが素晴らしいですね。オーケストラの各楽器にも印象的なソロがありますので、個々の楽器に耳を傾けて、音色を調和していけたらと思います。今後は、ショパンのマルカやノクターン等の小品もレパートリーにしたいです。そして、ショパンの作品は、一生かけても全曲弾いてみたいと思っています。」

特級グランプリに輝いたピティナ・ピアノコンペティションは、国際コンクール並に課題曲が多く

発売中

[ピアノ] 森本隼太、尾城杏奈、亀井聖矢

[指揮] 藤岡幸夫 [管弦楽] 関西フィルハーモニー管弦楽団

リストピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124/R.455(森本隼太) / ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11(尾城杏奈) / ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30(亀井聖矢)

2022.5/1(日) 2:00PM

S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円 学生 3,500円 (税込)

学生=小学生~大学生・専門学校他、各種学生。

※学生券をお求めの方は当日学生証をお持ちください。

[お問い合わせ] 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 03-3944-1583

[主催] 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 / ザ・シンフォニーホール

(取材・文 伊藤制子)

で大変だったが、コンクールを飛躍の場ととらえ、「表現の幅を広げて、喜びを伝えることのできるピアニストをめざしたい」という。

「大学院には、後1年在学しますが、その後は、フランスに留学できたらと思っています。」

「素晴らしいピアニストの方々ととても刺激を受けている」という森本、亀井とともに出演する「特級グランド・コンチェルト」では尾城ならではのこだわりのショパンが聞けそう。

「コンサートでは、オーケストラとソロでの一瞬一瞬のショパンの魅力を、お客様と分かち合うことができた嬉しいことです」

ヴァイオリン 石田泰尚



石田組ツアー2022/2023 硬派弦楽 アンサンブル 石田組

13名の無敵メンバーで届ける
大阪初公演は見逃せない!

あらゆる聴き手が楽しめる
選曲が素晴らしい!

神奈川フィルや京都市響のコンサートマスターを務め、三浦一馬率いる東京グラランド・ソロイストキンテートのコアメンバーとしても活躍するカリスマ・ヴァイオリニスト石田泰尚。彼の呼びかけで2014年に結成された硬派弦楽アンサンブル・石田組が、大阪では初となる待望の公演を行う!

メンバーは男性ばかりで、名を連ねるのは国内オーケストラなどで活躍する50名以上にものぼる名手たち。公演ごとにその中から演奏者を招集するスタイルで、今回の大阪公演でも佐久間聡一(広響コンサートマスター)、辻本玲(N響チェロ首席)、米長幸一(神奈川フィル・コントラバス首席)

豪華13名が集結するというから嬉しい限りだ。

プログラミングにあたっては、クラシックだけでなく、多彩なジャンルをバランスよく取り入れるスタイルを貫く石田組。今回もホルスト、レスピーギ、バルトークなどのクラシック。チャップリンや「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の映画音楽。さらにローリング・ストーンズやディープ・パープルのロックと、あらゆる聴き手が楽しめる選曲になっている。

「お客さんのことしか考えていないですし、お客さんが一人でも喜んで帰ってくればいい」を追究する石田と、その想いに心から共感する名手たちの大阪デビューをお聴き逃しなく!!

(文 渡辺謙太郎)



[ヴァイオリン] 石田泰尚、佐久間聡一、塩田 脩、ビルマン聡平、丹羽洋輔、竹内 弦
[ヴィオラ] 中村洋乃理、萩谷金太郎、鈴村大樹
[チェロ] 辻本 玲、門脇大樹、大宮理人 [コントラバス] 米長幸一

ホルスト:セントボール組曲/レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリア第三組曲/バルトーク(ヴィルナー編曲):ルーマニア民族舞曲/シルヴェストリ(松岡あさひ編曲):バック・トゥ・ザ・フューチャー/チャップリン(松岡あさひ編曲):スマイル/レインボー(近藤和明編曲):スターゲイザー/ローリング・ストーンズ(松岡あさひ編曲):悲しみのアンジー/ディー・パープル(近藤和明編曲):紫の炎

2022.5/3(火・祝) 2:00PM

S 6,600円 A 5,500円 B 4,400円 学生当日引換券(25歳以下) 2,000円(税込)

※学生当日引換券(25歳以下)につきまして、

ザ・シンフォニー チケットセンターではお電話のみご予約となります。

[お問い合わせ] キョードーインフォメーション 0570-200-888

[主催] キョードー大阪/キョードー東京

発売中

ALL BACH

オールバッハ名曲選!! 真夏のオルガンコンサート 2022



Interview

第22代札幌コンサート
ホール専属オルガニスト
ニコラ・プロカッチーニ

夏恒例の大人気「真夏のオルガンコンサート」



大阪の皆さんはバッハがお好きだ
ということも知っています

今年のザ・シンフォニーホールの人気シリーズ「真夏のオルガンコンサート2022」に登場するのは、ブクステフーデ国際オルガンコンクール覇者、ニコラ・プロカッチーニだ。

1995年イタリア生まれで、パリ国立高等音楽院に在籍するオルガニスト。昨年10月に札幌コンサートホール専属オルガニストに就くために初来日した。そんな彼は、3歳からアコーディオンを弾き始めたという。

「私の住んでいた地域では、アコーディオンは古くから弾き継がれてきた楽器です。オルガン文化も古くから根づいており、オルガン製作者がたくさんいて、歴史的オルガンも多くありました。オルガンを始めたのは、13歳から。歴史的オルガンの響きに惹かれて弾き始めました。でも、家にオルガンがなかったのです。おじいさんに車でオルガンのある教会へ連れて行ってもらっていました。チェンバロもその頃に習い始めました」

国立フェルモ音楽院でチェンバロを専攻。しかし、オルガンを学ぶべくドイツ・ハンブルク音楽演劇大学でも研鑽を積んだ。そんな彼が思う、バッハの魅力とは。

「バッハの音楽は、初期のころか

ら晩年にいたるまで、さまざまな魅力を発信していたところが興味深いですね。彼の作品は、万華鏡のように変化していきます。彼の置かれている環境やその時代のなかで、どんな変わっていきます。ある時はシンブルな音楽だったり、ある時はさまざまな音楽家の影響を受けたリ、チェンバロなど違う楽器の影響を受けたりしながら、いろんなスタイルの音楽を書いているのが面白いですね」

今回の「真夏のオルガンコンサート」も、オール・バッハ・プログラムだ。

「実はザ・シンフォニーホールこのシリーズは、来日前からクラスメイトや知人から噂で聞いたことがあるんです。大阪の皆さんはバッハがお好きだということも知っています！」

プログラムの聴きどころは。

「1曲目の《前奏曲とフーガト短調》などバッハ10代の創作から、経験を積み重ねた時期までの作品を聴けるようなプログラムを考えました。《汝イエスよ、いま天より降りたもうや》はコラールの旋律を取り入れるなど、初期の創作との違いを感じられると思います。彼の人生やその時代を辿るプログラムです」

ザ・シンフォニーホールに設置されているのは、スイスのクーン

社製のオルガンだが、同社製のオルガンをハンブルクで演奏したことがあるという。

「ザ・シンフォニーホールと同じビルダーが作ったオルガンでした。スイスの時計が正確なように、スイス製のオルガンは技術的にも正確で、とても美しい響きだと思います」

彼は、初めて大阪を訪れるのを楽しみにしている。

「ザ・シンフォニーホールは、日本初のクラシック音楽のホールと聞いています。私にとって大事なこのバッハのプログラムを皆さんと共有できる瞬間を、今から心待ちにしています」

(取材・文 道下京子)

発売中

[オルガン]ニコラ・プロカッチーニ

J.S.バッハ前奏曲とフーガト短調 BWV 535/いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV 676/フーガト短調「小フーガ」 BWV 578/パピロン川のほとりに BWV 653b/トリオソナタ 第5番 八長調 BWV 529/いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV 663/フーガト短調 BWV 575/汝イエスよ、いま天より降りたもうや BWV 650/幻想曲ト長調 BWV 572

2022.7/30(土) 2:00PM

全席指定 3,000円(税込)※休憩なし。約60分のコンサートです。

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

〈名曲シリーズ〉大阪フィル×ザ・シンフォニーホール ソワレ・シンフォニー Vol.19 & 20

[指揮]大植英次 [ピアノ]小山実稚恵 [管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェンピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」/ベートーヴェン交響曲 第7番 イ長調 op.92

2022.6/30(木) 7:00PM

A 5,100円 B 3,100円 (税込) ※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは3/29(火)から一般発売

[お問い合わせ] 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催]公益社団法人 大阪フィルハーモニー協会/ザ・シンフォニーホール

先行予約:3/24(木)

一般発売:3/30(水)

[指揮]大友直人 [ピアノ]上原彩子 [管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェンピアノ協奏曲 第3番 短調 op.37/ベートーヴェン交響曲 第3番 変ホ長調 op.55「英雄」

2022.10/26(水) 7:00PM

A 5,100円 B 3,100円 (税込) ※大阪フィル・チケットセンター他、プレイガイドは5/31(火)から一般発売

[お問い合わせ] 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催]公益社団法人 大阪フィルハーモニー協会/ザ・シンフォニーホール

一般発売:6/1(水)

チケット先行予約に関するお問い合わせ:ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

2014年にスタートした、大阪フィルとザ・シンフォニーホールが開催する「ソワレ・シンフォニー」。

9年目を迎える新シーズンは、6月に小山実稚恵、10月に上原彩子という、名実ともに人気を博すピアニストが登場。大植英次、大友直人という、個性と才気溢れるマエストロと大阪フィルとともに、華麗な音の宴へ誘う。

今シーズンは、6月30日のVol.19、10月26日のVol.20とともに、オール・ベートーヴェン・プログラム。ベテランアーティスト陣による、正統派プログラムをじっくりと楽しめる好機会だ。それぞれにキャリアを重ねてきた深い信頼関係のうえで奏でられるアンサンブルをお楽しみに!!

9年目を迎える
ソワレ・シンフォニー新シーズンは
ピアノ協奏曲の名曲を楽しむ



さくらんぼコンサート2022 大阪公演

創立50周年記念に贈るさくらんぼコンサート。
ヴァイオリン神尾真由子を迎え山響の魅力を発信!

[指揮]阪 哲朗 [ヴァイオリン]神尾真由子 [管弦楽]山形交響楽団

木島由美子:山響創立50周年記念 委嘱作品/ラロ:スペイン交響曲 op.21/バルトーク:管弦楽のための協奏曲 BB 123

2022.6/23(木) 7:00PM

※6:45PMより、指揮者によるプレ・コンサート・トークを予定しております。

S 5,100円 A 4,100円 B 3,100円 (税込)

[お問い合わせ]山響チケットサービス 023-616-6607

[主催]公益社団法人 山形交響楽協会/ザ・シンフォニーホール

発売中



知性派・阪 哲朗が率いる東北の名門・山形交響楽団の人気シリーズ「さくらんぼコンサート」が、今年も開催される!

1972年に東北初のプロ・オーケストラとして誕生した山響は今年が創立50周年で、奇しくもザ・シンフォニーホールと同じアニバーサリー・イヤー。そんな縁をさらに深めるかのように、ソリストには大阪出身の世界的ヴァイオリニストで、2007年のチャイコフスキー国際コンクールを制した神尾真由子が登場するというから嬉しい。しかも予定演目は、彼女が弱冠10歳でソリストを飾った際の演目であるラロ「スペイン交響曲」なので、濃密かつ充実した名演が期待できそう。

そして今回は、山響創立50周年記念委嘱作品と、バルトーク「管弦楽のための協奏曲」も披露予定。前者の作曲を手がけるのは、地元・山形出身の木島由美子で、出産後の2000年に一念発起して作曲の勉強を始めた異色の実力派だ。後者は、作曲家最晩年の傑作で、瑞々しい革新と生命力を湛えており、いずれも阪&山響らしく、しなやかで色彩豊かな妙技を存分に堪能させてくれることだろう。

さらに今回も本公演恒例の来場者全員にさくらんぼプレゼントと山形物産展を開催予定(ただし、コロナの状況次第で中止の可能性もあり)なので、山形の魅力を全身で満喫しよう!!

(文 渡辺謙太郎)

ライト・シンフォニックコンサート ～大人の贅沢～

ミュージカル界のスター岡 幸二郎が
オーケストラサウンドで歌う豪華なステージ

[指揮]横山 奏 [ゲスト]岡 幸二郎 [管弦楽]大阪交響楽団

『マイ・フェア・レディ』より君住む街／『ラ・マンチャの男』より見果てぬ夢／『サンセット大通り』よりアズ・イフ・ウィー・ネバー・セッド・グッドバイ／『ジキル&ハイド』よりア・ニューライフ／『レ・ミゼラブル』より夢やぶれて／『ミス・サイゴン』より命をあげよう／『オペラ座の怪人』よりミュージック・オブ・ザ・ナイト

2022.5/21(土) 2:00PM

S 8,000円 A 6,000円 プラチナ 10,000円 (税込)

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール/公益社団法人 大阪交響楽団

発売中

大阪交響楽団



ゲスト 岡 幸二郎



「大人の贅沢」をテーマに、毎回豪華で上質な大人のステージが繰り広げられる「ライト・シンフォニックコンサート」。

初開催から5年。普段、クラシック音楽に接する機会が少ない大人の音楽ファンにとっても、気軽に楽しむことができる空間になれば」と企画した、ザ・シンフォニーホールの恒例コンサートとして人気を博している。

今回は、前回公演に続いて、ミュージカル俳優の岡 幸二郎が登場。

元劇団四季のミュージカルスターで、退団後も『レ・ミゼラブル』『ミス・サイゴン』『オペラ座の怪人』など数多くの作品に出演。186センチの長身と彫の深いマスク、溢れんばかりの豊かな声量と表現力で、多くのファンを魅了し続けている。

今回のコンサートでは、彼の十八番といえる『レ・ミゼラブル』の「夢やぶれて」、『オペラ座の怪人』の「ミュージック・オブ・ザ・ナイト」といった定番曲に加え、『ジキルとハイド』の「ア・ニューライフ」など、ミュージカルの超名作からの名曲を続々と披露していく。大阪交響楽団とは2度目の共演。聴くものを圧倒する生のオーケストラの演奏と歌のマリアージュを楽しみにしてほしい。

初めての方々も、リピーターのお客様も、クラシック音楽、ミュージカル音楽の素晴らしさを再認識できるだろう。

日本センチュリー交響楽団 ハイドンマラソンHM.27

ハイドンマラソン快走中！
活力みなぎるような演奏に注目を！

[指揮]飯森範親

[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ハイドン：交響曲 第53番 二長調 Hob. I:53「帝国」／交響曲 第67番 ヘ長調 Hob. I:67／交響曲 第68番 変ロ長調 Hob. I:68

2022.5/26(木) 7:00PM

A 5,000円 B 4,000円 (税込)

[お問い合わせ] センチュリー・チケットサービス 06-6848-3311

[主催]公益財団法人 日本センチュリー交響楽団/ザ・シンフォニーホール

発売中



指揮 飯森範親

生涯に104曲もの作品を残した「交響曲の父」ハイドン。その全曲を日本センチュリー交響楽団（以下JCSO）が首席指揮者の飯森範親と8年かけて演奏する「ハイドンマラソン」。

2015年に始動したが、20年の第19回で後半に折り返した際、会場がザ・シンフォニーホールへ移り、これで第27回目を迎える。

予定演目は、第53、67、68番の3つの交響曲。1778〜79年頃に書かれた第53番は「帝国」の異名でも知られ、作曲者が70年後半に残した交響曲の中で最も有名な作品のひとつ。いかにも古典派らしい輝かしく堂々たる構成で、彼の生前から大人気を博したようだ。だが、そのため楽譜が複数存在し、特に第4楽章など異稿が3種類も残されている。今回はその選択も含め、飯森&JCSOの演奏と解釈に注目が集まる。

第67番は第53番と同時期に書かれ、随所で弦楽器の特殊奏法が多用されているのが特色。第1楽章ではピッツィカート、第2楽章はホル・レーニョ（月の毛ではなく棹の部分で音を出す）、第3楽章はスコルダトゥーラ（楽器本来とは違う調弦）と、弦楽器の奥深さを存分に堪能したい。

そして第68番もこの2曲と同じ頃の作品で、爽快で充実した響きに満ちた傑作。

「交響曲の父」の真骨頂を示す名演になることだろう!!

(文 渡辺謙太郎)

Osaka Shion Wind Orchestra 第142回定期演奏会

ウインドオーケストラの魅力が詰まった高 昌帥の作品の数々を作曲家自身のタクトで贈る!

[指揮・作曲]高 昌帥

[吹奏楽]Osaka Shion Wind Orchestra

【オール・高昌帥・プログラム】今、吹き渡る風／ウインドオーケストラのためのナイトフォニー／ウインドオーケストラのためのマインドスケープ／優しい花たちへ／吹奏楽のための協奏曲

2022.4/24(日) 2:00PM

S 5,000円 A 4,000円 B 3,000円 (税込)

【お問い合わせ】Shionチケットセンター 0800-919-5508

【主催】公益社団法人 大阪市音楽団



指揮 高昌帥

Osaka Shion Wind Orchestra

©飯島 隆

大阪出身で大阪音大卒、現在は同大&短大で教授を務める作曲家&指揮者・高昌帥(コウ・チャンス)が、名門Shionと初共演を果たすことが決定した。作曲家として多彩なジャンルに傑作を残し、とりわけ吹奏楽に造詣が深い高昌帥。自身のルーツである朝鮮の伝統音楽の要素を巧みに織り交ぜて書き上げることが多いその創作は、強靱かつ瑞々しい生命力が満ちあふれているのが特長になっている。

今回は、彼のあまたの傑作の中から5作品を厳選。

プロオケ奏者が年に一度だけ集う伝説の楽団・なにわ《オーケストラ》ウィンズの2016年委嘱作品「今、吹き渡る風」。

大津シンフォニックバンドの40周年記念委嘱作品「ウインドオーケストラのためのナイトフォニー」。

幻想と激情が交錯する彼の代表作「ウインドオーケストラのためのマインドスケープ」。

かの伊藤康英がR・シュトラウス最晩年の響きを想わせると高評した「優しい花たちへ」。

そして演奏に30分近くかかる大曲で、高い技術と歌心がバランスよく必要とされる「吹奏楽のための協奏曲」。

高昌帥がこれまでに吹奏楽界にもたらしてきた功績の大きさを最良の形で味わえる一期一会の演奏会をぜひともお聴き逃しなく!!

(文 渡辺謙太郎)

春休み、子どもたちと未来へ! ~音楽の展覧会~

小さなお子さん大歓迎の春休み企画。
オーケストラに歌あり、ハーモニカあり、ユーフォニアムあり。

[指揮]守山俊吾 [管弦楽]ワールドシップオーケストラ×シンフォニア・アルシスOSAKA

[ピアノ]沼光絵理佳、丸山晃久 [クロマチックハーモニカ]南 里沙

[メゾソプラノ]濱田彩子 [ユーフォニアム]服部直士 [サクソフォン]野島レナ

ムソルグスキー(ラヴェル編):展覧会の絵/ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番/リスト:ピアノ協奏曲第1番/ブッチーニ(ハーマン):トスカファンタジー/ボッカラーリ:幻想協奏曲/小林秀雄:落葉松/A.L.ウェバー:メモリー/クロマチックハーモニカソロ曲 ほか

2022.4/3(日) 3:00PM

全席指定 大人 4,000円 中学・高校生 2,000円 小学生以下 100円 (税込)

※乳幼児のお子様も(お膝の上でも)必ず席券をご購入ください。

【お問い合わせ】NPO法人ワールドシップ 050-3697-2014

【主催】NPO法人ワールドシップ



指揮 守山俊吾

シンフォニア・アルシスOSAKA

ワールドシップオーケストラ

発売中

感受性豊かな子どもにこそ、生のクラシック音楽を届けたいと立ち上がった二団体が初共演。誰もが楽しめるコンサートを開催するため、熱い想いを抱いた二つのオーケストラが「文化発祥の地・なにわ」から音楽を届ける。東南アジアの途上国で子どもたちに「初めてのオーケストラ体験」を届けているワールドシップオーケストラと、指揮者守山俊吾が主宰するシンフォニア・アルシスOSAKAが初共演。

二つの若きオーケストラが届けるメイン曲は、「展覧会の絵」。また6人ものソリストを迎えて演奏する協奏曲の数々は見逃せない。特に、のだめカンタービレの収録ピアニストである沼光絵理佳によるラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」は必聴。また、クロマチックハーモニカ世界一の南里沙も出演と、豪華な内容となっている。

特筆すべきは、小学生以下の子どもが保護者同伴だと入場料が100円であるという点である。また、外国人や障がいのある方への配慮もあり、誰もが楽しむことができる、これまでのクラシックコンサートとは趣が異なる内容となっている。関西のクラシック文化の未来を担う、とも言える新しく、フレッシュな演奏会へ、足を運んでみてはいかがだろうか。